

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073900138		
法人名	医療法人 湊江堂 三野原病院		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町篠栗5017 (電 話) 092-652-2755		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 日	評価結果確定日	令和 3 年 1 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族との信頼関係や絆を大切にしています。
ご家族へのお手紙をはじめ、写真や電話でこまめに近況報告をしています。
理学療法士からの助言を受けやすい環境で、個別のリハビリ等に取り入れています。2020年5月より生活機能向上連携加算算定開始

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 11 月 5 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

郊外にある事業所はJRの駅や役所、銀行、商店が立ち並ぶ県道沿いに位置している。法人の地域支援センターの2階にあり、建物内には有料老人ホームと、地域住民に開放されている機能訓練室や喫茶、憩いのスペース等がある。地域との関りも多い法人の協力もあり、地域に開けた事業所となっている。また、各利用者がその人らしく生活の質が高められるように、体調管理の他に各利用者へのリハビリテーションも行なわれており、利用者は趣味や積極的な家事にも取り組んでいる。更に職員は利用者・家族の声を尊重し、日ごろからサービスの向上に努めているが、今後は権利擁護の専門的知識などの習得により、更に高い目標に向かう事業所となることを期待したい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目につくところに掲示し、職員会議時やケース検討時等の際に適宜内容確認を行い、理念の共有化及び忘備化に陥らぬように留意している。	事業所独自の理念には、利用者の人格の尊重、個々の利用者に応じた自立した生活の支援や地域密着の視点があり、ミーティングや職員会議で理念を確認・共有している。職員は利用者が能力を持続できるように工夫すると共に、ニーズを引き出し、その想いに寄り添った支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は近隣小学校との交流会や今年の3月までは、毎週月曜日に理学療法士による一般参加の健康体操への参加。そこでの地域の方との交流をしていた。4月より理学療法士の担当変更及びコロナの影響で休止中。	事業所は地域の健康フェスタや夏祭り等の行事の他、法人主催の健康体操等にも地域住民と共に参加して、交流を深めている。また、近隣の小学生との交流もあり、地域ボランティアには施設内のみならず、行事や外出で支援を受ける等、地域住民と良好な関係を築いている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習受け入れ、小学校への認知症高齢者の講義等行っている。今年度はコロナ渦の影響で交流会及び実習受け入れは中止。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合にて開催。利用者・家族・行政機関を交えて意見交換や施設見学を実施している。運営推進会議での協議内容は議事録として集約しミーティング時に職員へ伝達。4月、6月、8月はコロナの影響で文書による情報交換としている。	通常、運営推進会議は2か月に一度行われているが、現在は感染症流行により、書面で報告して意見交換を行っている。参加者からは事故防止の取り組みへの要望や、小学生への高齢者教育の協力の要望等が出されている。事業所は出された意見や要望は検討して、サービス向上や地域貢献の取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回行なっている運営推進会議での情報交換。篠栗町の介護サービス事業者等連絡会も現在コロナの影響で中止中。昨年、近隣GH閉鎖時、役場福祉課の担当者、入居者の受け入れ依頼に協力をした経緯あり。	月に一度行政との連絡会議に参加し、地域の介護事業に関わると共に、行政からの認知症高齢者の入居相談も受けている。また、最近では感染症対策について連携すると共に、ガウンやフェイスシールドの供給を受ける等、行政とは協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、3ヶ月に一度、身体拘束・虐待廃止委員会を実施。議事録は職員がいつでも閲覧できるようにしている。	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束に関する検討会と、内部研修で職員の意識向上に努めている。また、日頃から利用者の帰宅願望や外出傾向を把握し、利用者に寄り添う対応を行っている。しかし、出入り口が死角であるという構造上の問題から、止むを得ず施錠を行っている。	出入口を施錠しない為のこれまでの事業所の工夫や取り組みが会議録にて確認できます。今後も引き続き利用者が抑圧感を感じないケアの為にも、職員全員のアイディアや考えを持ち寄り、継続して身体拘束をしないケアに取り組まれることを期待します。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、3ヶ月に一度、身体拘束・虐待廃止委員会を実施。議事録は職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は、まだ研修等に行く機会が少なくこれからの課題。制度の利用が必要な際には管理者、担当相談員が説明と協力を行っている。重要事項説明書において簡易説明・情報の提供を行っている。	管理者は権利擁護に関する制度に関して、家族に利用開始時や、必要に応じて説明を行っている。また、権利擁護に関する家族からの相談に関しては、法人の地域支援センターの相談員が相談を受けるシステムになっている。	職員は日頃から家族との信頼関係を大切にしていますが、権利擁護制度への理解を深める必要があります。今後、パンフレットなどを揃え、内部研修の充実を期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、事前に一読していただいた上で行っている。解約に関してはこちらから一方的な依頼はしていない。長期入院に伴い経済的負担が苦しくなると予測される家族に対しては、治療見込み機関が定まった時点で医師から病状説明を行いその上で解約についてご家族に判断していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口においては管理者、法人内、外部機関（町健康課・広域連合粕屋支部・国保連）等の機関の所在地・電話番号・受付時間について重要事項説明書に記載している。	職員は日頃から、利用者に積極的に言葉かけを行い要望を聞いている。食事や外出に関しては出来る限り対応している。また、家族からも、面会や月に一度の状況報告の手紙を通して、意見や要望を聞いている。出された意見は、利用者サービスの向上に活かすため、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・タのユニット毎の申し送りと毎朝ユニットリーダーと管理者による朝礼を行っている。ユニット毎のミーティングと全体ミーティングも適宜（2～3ヶ月に一度）行っている。毎月の一般職員参加の会議を行い、意見や提案を述べる機会を設けている。	管理者は職員会議やミーティングの他、定期的な個人面談で職員の意見を聴取し、必要に応じて適宜、面談を行っている。更に、職員からの要望や意見、提案は基本理念に照らしながら、出来る限り事業所運営に反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の規定に基づき就業している。法人内規定もいつでも閲覧できる場所に保管してある。適宜、キャリアファイルを用いて職員と面談を行い、問題点や思っていることを話し合うようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	嘱託での勤務者もあり、特に年齢、性別で不採用にした経緯はない。	職員の採用は法人本部によって行われ、性別、国籍などを理由に採用対象から排除されることはない。また、キャリアファイルを通して、職員の研修希望や資格取得希望の自己実現の権利が保証されている。さらに、休業保証や処遇改善にも取り組んでおり、誰もが安心して働ける職場環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育等の研修や他施設の見学は、あれば積極的に参加するようにしている。	法人が実施する高齢者や障がい者の人権に関する研修の他、毎年、事業所内でも内部研修が行われている。職員は全員、利用者の尊厳や人権、プライバシーに関する「権利擁護チェックリスト」で自己覚知を行い、基本的人権の尊重への意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部、法人内の勉強会や研修スケジュールを管理し、職員の力量を考慮しながら参加を勧めている。研修連絡は閲覧しやすいように職員の動線上に、研修の掲示をしている。法人内研修にはランチョンセミナー（昼食時間中）を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老健大会への参加及びコロナ対策では、近隣GHとの電話連絡による情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当相談員が相談の経緯やその必要度について把握し、勘案して対応を行っている。受入の緊急性が高い場合は待機順番を繰り上げる等の対応も行っている。入居に際しては必ず本人・家族による見学、面談を実施。場合によっては家族或いは本人単独面談も行っている。ご本人の呼び方なども、家族と本人に確認している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内容から他に適切な受入機関やサービスがあれば紹介や説明を行っている。相談員が家族を含めた支援・ソーシャルワークを行う事をその視点に含めて対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で、法人全体での連携会議で報告、本人に適したサービスを提供できるよう話し合いを行なっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事を雑談をしながら一緒に行い。リハビリも一緒に歌を唄ったり、体を動かすようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	原則面会時間は定めていない。＊現在は面会禁止。ご家族、ご入居者がいつでも連絡出来るように、直通の携帯電話を常備している。毎月ご入居者の情報を手紙と写真でお伝えしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やご家族がスムーズに外出ができるよう、普段の状態を手紙などで情報提供している。贈り物や手紙等が来た時は、お礼の電話をかけたたり、手紙を書く事を支援している。	入居前及び入居後の情報収集や、利用者や家族からの情報に基づいて、馴染みの人や場との関係把握に努め、職員全員で共有している。また、利用者の家族や知人が気軽に訪問できる環境を作り、電話や手紙のやり取りの支援を行う他、利用者の馴染みの場所に同行するなど、関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会・レクリエーション活動やゲームを行い、利用者同士の交流を図っている。家事などもご入居者同士が、同じ場所で行っていただけるよう支援し、職員も一緒に行うことで、より良い関係性が築けるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された入居者の面会にいている。要望があれば、相談支援を行っている。母から娘、姉から弟と当施設をご利用いただいた経緯あり。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に生育歴や趣味、及び希望について本人や家族から情報を得て、入所後の余暇活動や過ごし方に反映できるように心がけている。音楽が好きならCDやビデオを流し、将棋が好きであれば購入し、職員が相手となり楽しんでいただいている。	職員は利用者と話したり、接する時間を大切にして、利用者との日々の会話の中から、思いや意向を聞き、運営に反映させている。意思疎通の困難な利用者に対しては、利用者の些細な反応などを家族に伝え、家族から情報を得たり、思いの把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生育歴について情報収集を行い、生活歴・環境のイメージ作りに活用している。入居時には使用していた家財道具を可能な限り利用していただいている。過去のサービス・施設申込有無については入居相談インテーク時に情報を収集している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方及び身体状態については、ADL表内に一日の活動内容、行動及び身体状況について記入をおこない把握に努めている。職員の思い込みや決めつけにならないよう、情報を正しく共有するために、日々の申し送りや朝礼での情報交換を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの意見はもちろん、主治医、理学療法士、管理栄養士、歯科医師などの意見や情報を元に計画作成者と現場スタッフが介護計画を作成している。	利用者と家族の思いを聞き取り、介護計画に反映させている。3ヶ月に1回、モニタリングを行い、介護職員、主治医、歯科医師、介護支援専門員、同法人の理学療法士、管理栄養士が参加して、意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	半年に一度は家族にカンファレンスに参加していただいている。また、申し送りでも問題は本人の希望などあれば随時見直すようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	耳鼻科、眼科などの専門医療への受診に家族が無理な場合にスタッフが同行する。外部からの美容業者への訪問での散髪の依頼など行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力による催しものや外出イベント。民生委員については運営推進会議の際に協力していただいている。小学生訪問を年数回行っている。地域のイベント（祇園祭）にも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外科、耳鼻科、歯科等は家族、本人の希望する場所が受診できるようしている。	受診の希望を把握して、入所以前からのかかりつけ医を、家族の協力を得て継続している。希望があれば、同法人から、月2回の往診を支援している。往診時に管理者、看護師が付添い、医師、歯科医師の指導内容や服薬の変更について家族に月1回の手紙で報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに1人看護師を配置し、日々の健康管理に努めている。主治医病院看護師とも情報を共有し対応するようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急な入院時に必要とされる既往歴等の提供をできる記録をパソコン内に準備している。職員が入院期間などに面会に行った際に、状態など情報を把握できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書において重度化・看取りについて予めご家族の意思を聞いており、実際にその場に至った場合は、現場の現状を見極め、誠実に対応したいと考えている。	事業所独自で、重度化及び看取りに関する対応指針があり、入所時に家族に説明を行っている。入所時のアンケートでは、病院での看取りを希望する家族が多い。終末期の段階となった場合には、主治医より家族に説明を行い、家族の希望を把握して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対してのマニュアル、手段は電話横に掲示している。基本、病院、看護師指示に従うようになっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災以外の訓練が行えていないこと、また地域との協力体制が十分ではないので今後の課題にしたい。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。防災設備点検時に、消火器の使用方法のレクチャーを受けている。地域の民生委員、区長の働きかけで、地域住民の参加協力を得て、避難訓練を行う計画がある。備蓄は1階の食堂に利用者3日分の水と食料が備えられている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなど、気をつけるよう徹底している。また接遇向上委員会が発足し、マニュアルの作成と勉強会への参加を実施している。	隠語を使用したり、送り時にはイニシャルを使用している。トイレ誘導時は小声で声かけしてプライバシーに配慮している。管理者は、職員の関わり方や、声かけで気になる事があれば、職員との定期的な面談時や、その都度話を聞いて意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴者には補聴器の購入などをお願いしコミュニケーションがとり易いよう支援した。また、高度難聴者の方などには、ボードなどを使い、意見を聞くなどしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限、行って欲しい運動など、本人に説明のもと行っている、本人の希望に沿うようケアプランも立てている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの理美容を利用している方が大半である。本人や家族の希望で理容室など利用される時は家族に付き添いを依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	病院からの配食を受けている。1日15日は赤飯を提供しその土地の風土に合わせている。嚥下や咀嚼が不十分な方には、形状を変え提供したり、栄養士の協力でチルド食の提供を行っている。マニュアルを作成し、食事、配膳時の注意点や工夫を行っている。	同法人の病院からの食事を提供している。事業所では、利用者の嚥下状態に合わせて、軟飯、全粥を作り、汁物の温めを行う。温かいものは温かく食べられるよう配慮している。食事の盛付と後片付けを利用者と一緒に行っている。介護計画見直し時に管理栄養士が同席し、利用者の嗜好を伝えている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供また栄養スクリーニングシートにて情報提供を行っている。 特別食に関しては、より細かい情報を病院より提供していただき食事に反映させている。水分チェック表で水分の管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを行う。 磨き残しチェック、介助行っている。月に2回歯科医師による往診、口腔ケアチェックを行なっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのチェックを行い、把握に努めている。個人個人にあった排泄を計画し、問題があればその都度見直している。 極力オムツは使用しないよう努力している。	排泄を失敗した際には、言葉に出さず、介助する職員の人数が多くなならないよう配慮して、部屋や浴室に誘導している。尿意のない利用者へは、排泄チェック表を見て定期的にトイレに誘導し、排泄の自立に向け支援している。福祉用具業者主催のオムツ研修会を開催して、利用者の状況に合ったパットやオムツの種類について検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックを行うとともに、日々のリハビリで程良く運動を促している。かかり付けの病院への情報提供を行い、その都度指示をもらう。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	浴室には一人ずつとし、羞恥心への配慮を行っている。入浴へ消極的な場合、無理強いはせず、別日に入浴を行えるよう、その場で調整している。現在、一人2～3日に1回のペースで入っていただいている。	月曜から土曜まで入浴を設定している。現在は午前中を入浴の時間としている。週2回から3回入浴できるよう声かけを行っているが、毎日入浴できる準備を行っている。入浴を拒否される利用者へは無理強いせず、翌日に声掛けを行ったり、足浴や着替えだけを行ったり、朝の着替え時に清拭を行い、清潔保持に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者による巡回を通し、起床・就寝時間を概ね把握し生活リズムに乱れが生じていないか等をチェックしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルに沿って薬を管理している。 薬剤の情報に関しては、説明書をカルテに綴じ、お薬手帳と併用し情報を把握している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書・音楽・将棋・頭の体操・裁縫等各個人の希望や趣向に合わせた過ごし方をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やショッピングなど、介護車両を用いて行える準備はしている。気候、天候を考慮しながらの事業所付近の散歩を心がけている。	利用者の意向やこれまでの習慣を把握して、個別に食べたいものがあれば、外食に出かけられるよう支援している。気候の良い時には近所の神社への散歩を行っている。年2回程度、家族参加型のバスハイクを企画して、家族と一緒に花見や道の駅へ出かけられるよう外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため常時本人が管理するという事は行っていない。（小銭程度の所持はある）但しレクリエーション等の外出時に少額の金銭管理が自己にて行える方に関しては状況をみて適宜実施している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直通の携帯電話やスタッフ室の固定電話を使用し、電話が可能な方には、本人の望む時間に電話を使用してもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールに音楽を流し、季節に合った装飾を行っている。周に一度は、花瓶の花を入居者に生けていただいたりして、季節感をもたせている。ホールにはソファを配置しゆったり過ごせるようにしている。	共用の空間には利用者の作品や、家族との写真、季節の装飾がに飾られている。日の光が入り、広々としたリビングで利用者と職員がゆっくりと会話し、洗濯物をたたんだり、ソファでTVを観たり、家庭的な雰囲気の中で、それぞれで自由に過ごしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファの配置を工夫している。また廊下にベンチや椅子を設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設側で用意したものを使用しているが。布団なども本人や家族が望んだ場合は本人が使用されていたものを使っている。家具もご家庭で使用されていたものを極力持ってきていただくようお願いしている。家族などから頂いた写真や装飾品は、居室に飾り、居心地の良い居室づくりをしている。	利用者の居室には、使い慣れたタンスや机、時計などが持ち込まれている。趣味の物や、家族の写真が飾られている。ベッドや家具は利用者が居心地よく、安全に過ごせるように配置されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの洗剤、ゴム手袋、ペーパーのストックなどは極力置かず、シンプルな環境にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目につくところに掲示し、職員会議時やケース検討時等の際に適宜内容確認を行い、理念の共有化及び忘備化に陥らぬように留意している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は近隣小学校との交流会や今年の3月までは、毎週月曜日に理学療法士による一般参加の健康体操への参加。そこでの地域の方との交流をしていた。4月より理学療法士の担当変更及びコロナの影響で休止中。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習受け入れ、小学校への認知症高齢者の講義等行っている。今年度はコロナ渦の影響で交流会及び実習受け入れは中止。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合にて開催。利用者・家族・行政機関を交えて意見交換や施設見学を実施している。運営推進会議での協議内容は議事録として集約しミーティング時に職員へ伝達。4月、6月、8月はコロナの影響で文書による情報交換としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回行なっている運営推進会議での情報交換。篠栗町の介護サービス事業者等連絡会も現在コロナの影響で中止中。昨年、近隣GH閉鎖時、役場福祉課の担当者、入居者の受け入れ依頼に協力をした経緯あり。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、3ヶ月に一度、身体拘束・虐待廃止委員会を実施。議事録は職員がいつでも閲覧できるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、3ヶ月に一度、身体拘束・虐待廃止委員会を実施。議事録は職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は、まだ研修等に行く機会が少なくこれからの課題。制度の利用が必要な際には管理者、担当相談員が説明と協力を行っている。重要事項説明書において簡易説明・情報の提供を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、事前に一読していただいた上で行っている。解約に関してはこちらから一方的な依頼はしていない。長期入院に伴い経済的負担が苦しくなると予測される家族に対しては、治療見込み機関が定まった時点で医師から病状説明を行いその上で解約についてご家族に判断していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口においては管理者、法人内、外部機関（町健康課・広域連合粕屋支部・国保連）等の機関の所在地・電話番号・受付時間について重要事項説明書に記載している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・タのユニット毎の申し送りと毎朝ユニットリーダーと管理者による朝礼を行っている。ユニット毎のミーティングと全体ミーティングも適宜（2～3ヶ月に一度）行っている。毎月の一般職員参加の会議を行い、意見や提案を述べる機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の規定に基づき就業している。法人内規定もいつでも閲覧できる場所に保管してある。適宜、キャリアファイルを用いて職員と面談を行い、問題点や思っていることを話し合うようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	嘱託での勤務者もあり、特に年齢、性別で不採用にした経緯はない。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育等の研修や他施設の見学は、あれば積極的に参加するようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部、法人内の勉強会や研修スケジュールを管理し、職員の力量を考慮しながら参加を勧めている。研修連絡は閲覧しやすいように職員の動線上に、研修の掲示をしている。法人内研修にはランチオンセミナー（昼食時間中）を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老健大会への参加及びコロナ対策では、近隣GHとの電話連絡による情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当相談員が相談の経緯やその必要度について把握し、勘案して対応を行っている。受入の緊急性が高い場合は待機順番を繰り上げる等の対応も行っている。入居に際しては必ず本人・家族による見学、面談を実施。場合によっては家族或いは本人単独面談も行っている。ご本人の呼び方なども、家族と本人に確認している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内容から他に適切な受入機関やサービスがあれば紹介や説明を行っている。相談員が家族を含めた支援・ソーシャルワークを行う事をその視点に含めて対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で、法人全体での連携会議で報告、本人に適したサービスを提供できるよう話し合いを行なっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事を雑談をしながら一緒にいき。リハビリも一緒に歌を唄ったり、体を動かすようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	原則面会時間は定めていない。＊現在は面会禁止。ご家族、ご入居者がいつでも連絡出来るように、直通の携帯電話を常備している。毎月ご入居者の情報を手紙と写真でお伝えしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やご家族がスムーズに外出ができるよう、普段の状態を手紙などで情報提供している。贈り物や手紙等が来た時は、お礼の電話をかけたたり、手紙を書く事を支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会・レクリエーション活動やゲームを行い、利用者同士の交流を図っている。家事などもご入居者同士が、同じ場所で行っていただけるよう支援し、職員も一緒に行うことで、より良い関係性が築けるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された入居者の面会にいている。要望があれば、相談支援を行っている。母から娘、姉から弟と当施設をご利用いただいた経緯あり。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に生育歴や趣味、及び希望について本人や家族から情報を得て、入所後の余暇活動や過ごし方に反映できるように心がけている。音楽が好きならCDやビデオを流し、将棋が好きであれば購入し、職員が相手となり楽しんでいただいている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生育歴について情報収集を行い、生活歴・環境のイメージ作りに活用している。入居時には使用していた家財道具を可能な限り利用していただいている。過去のサービス・施設申込有無については入居相談インタビュー時に情報を収集している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方及び身体状態については、ADL表内に一日の活動内容、行動及び身体状況について記入をおこない把握に努めている。職員の思い込みや決めつけにならないよう、情報を正しく共有するために、日々の申し送りや朝礼での情報交換を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの意見はもちろん、主治医、理学療法士、管理栄養士、歯科医師などの意見や情報を元に計画作成者と現場スタッフが介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	半年に一度は家族にカンファレンスに参加していただいている。また、申し送りでも問題は本人の希望などあれば随時見直すようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	耳鼻科、眼科などの専門医療への受診に家族が無理な場合にスタッフが同行する。外部からの美容業者への訪問での散髪の依頼など行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力による催しものや外出イベント。民生委員については運営推進会議の際に協力していただいている。小学生訪問を年数回行っている。地域のイベント（祇園祭）にも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外科、耳鼻科、歯科等は家族、本人の希望する場所が受診できるようしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに1人看護師を配置し、日々の健康管理に努めている。主治医病院看護師とも情報を共有し対応するようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急な入院時に必要とされる既往歴等の提供をできる記録をパソコン内に準備している。職員が入院期間などに面会に行った際に、状態など情報を把握できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書において重度化・看取りについて予めご家族の意思を聞いており、実際にその場に至った場合は、現場の現状を見極め、誠実に対応したいと考えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対してのマニュアル、手段は電話横に掲示している。基本、病院、看護師指示に従うようになっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災以外の訓練が行えていないこと、また地域との協力体制が十分ではないので今後の課題にしたい。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなど、気をつけるよう徹底している。また接遇向上委員会が発足し、マニュアルの作成と勉強会への参加を実施している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴者には補聴器の購入などをお願いしコミュニケーションがとり易いよう支援した。また、高度難聴者の方などには、ボードなどを使い、意見を聞くなどしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限、行って欲しい運動など、本人に説明のもと行っている、本人の希望に沿うようケアプランも立てている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの理美容を利用している方が大半である。本人や家族の希望で理容室など利用される時は家族に付き添いを依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病院からの配食を受けている。1日15日は赤飯を提供しその土地の風土に合わせている。嚥下や咀嚼が不十分な方には、形状を変え提供したり、栄養士の協力でチルド食の提供を行っている。マニュアルを作成し、食事、配膳時の注意点や工夫を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供また栄養スクリーニングシートにて情報提供を行っている。 特別食に関しては、より細かい情報を病院より提供していただき食事に反映させている。水分チェック表で水分の管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを行う。 磨き残しチェック、介助行っている。月に2回歯科医師による往診、口腔ケアチェックを行なっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのチェックを行い、把握に努めている。個人個人にあった排泄を計画し、問題があればその都度見直している。 極力オムツは使用しないよう努力している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックを行うとともに、日々のリハビリで程良く運動を促している。かかり付けの病院への情報提供を行い、その都度指示をもらう。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	浴室には一人ずつとし、羞恥心への配慮を行っている。入浴へ消極的な場合、無理強いはせず、別日に入浴を行えるよう、その場で調整している。現在、一人2～3日に1回のペースで入っていただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者による巡回を通し、起床・就寝時間を概ね把握し生活リズムに乱れが生じていないか等をチェックしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルに沿って薬を管理している。 薬剤の情報に関しては、説明書をカルテに綴じ、お薬手帳と併用し情報を把握している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書・音楽・将棋・頭の体操・裁縫等各個人の希望や趣向に合わせた過ごし方をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やショッピングなど、介護車両を用いて行える準備はしている。気候、天候を考慮しながらの事業所付近の散歩を心がけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため常時本人が管理するという事は行っていない。（小銭程度の所持はある）但しレクリエーション等の外出時に少額の金銭管理が自己にて行える方に関しては状況をみて適宜実施している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直通の携帯電話やスタッフ室の固定電話を使用し、電話が可能な方には、本人の望む時間に電話を使用してもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールに音楽を流し、季節に合った装飾を行っている。周に一度は、花瓶の花を入居者に生けていただいたりして、季節感をもたせている。 ホールにはソファを配置しゆったり過ごせるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファの配置を工夫している。また廊下にベンチや椅子を設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設側で用意したものを使用しているが。布団なども本人や家族が望んだ場合は本人が使用されていたものを使っている。家具もご家庭で使用されていたものを極力持ってきていただくようお願いしている。家族などから頂いた写真や装飾品は、居室に飾り、居心地の良い居室づくりをしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの洗剤、ゴム手袋、ペーパーのストックなどは極力置かず、シンプルな環境にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない